

平成 28 年度自己点検・評価報告書



学校法人 本山学園
岡山医療技術専門学校
理学療法学科
作業療法学科

目次

1. 学校の教育目標	2
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	3
3. 評価項目の達成及び取組状況	
(1) 教育理念・目的・人材育成像	4
(2) 学校運営	5
(3) 教育活動	6
(4) 学修成果	8
(5) 学生支援	9
(6) 教育環境	10
(7) 学生募集と受け入れ	11
(8) 財務	12
(9) 法令等の遵守	13
(10) 社会貢献・地域貢献	14
(11) 国際交流	15
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	16

1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神は、①豊かな人間性と創造力を養う②自主の精神を養う③国際的視野を養うである。その精神に則って教育目標を定めている。本校の教育目的は「教育基本法及び学校教育法に基づいて、理学療法士及び作業療法士に必要な専門知識、技術を授け、かつ医療事務従事者に必要な能力を育成し、教養の向上を図ることを目的とする」であり、学則第1条に謳っている。すなわちリハビリテーション医療、医療事務関連の分野でチーム医療の一員として社会に役立つ人材を育成することにある。この目的を達成するために、それぞれの領域において、科学に基づく知識と技術を備え、患者様に対する共感・連帯感を心に抱き、何事に対しても強い責任感を持って行動できる人材を育成し、社会に送り出すことを目標とし、常に授業の受け手である学生の立場に立った教育を目指している。

育成しようとする人材像は、以下の11点である。

- ①厳しい倫理観を持ち、自分を律することができる。
- ②科学的根拠に基づいた知識・技術を備えている。
- ③常に自己研鑽に努める向上心を持つ。
- ④患者様に対して共感し、連帯する心を抱く。
- ⑤良好な対人関係を築けるコミュニケーション能力を備えている。
- ⑥何事に対しても強い責任感を持って行動できる。
- ⑦仕事に対する情熱を持続する意思を持つ。
- ⑧自らの健康管理ができる。
- ⑨社会人としての常識（教養）を身につけている。
- ⑩国際的視野、異文化理解力を身につけている。

2. 本年度に重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①学習意欲及び学力向上のため、個別指導・リメディアル教育を強化する。
- ②社会性・人間性の涵養・向上のために、教養教育・日常の生活指導を充実する。
- ③自発的・主体的に自ら課題を見つけ、学習に取り組む習慣を身につけさせる。
- ④学生の学習実態を調査し、教育の改善につなげる。
- ⑤教員の資質、教育力の向上を図る。

この具体的な取り組みとして、①～③については、入学後のスムーズな授業への導入目的のため、入学前オリエンテーションと入学後オリエンテーション、基礎ゼミ活動を充実させる。基礎ゼミ活動では個別指導に注力する。この基礎ゼミ活動を通じて学生個々の学習状況や生活面、特徴を把握するとともに、保護者との関係を密にし、一つひとつの事例に対して細やかに基礎ゼミ担当教員が対応していく。

④については、授業評価、個人面談、保護者会等を実施することで、教育のハード面やソフト面についての改善を積極的に実施する。

⑤については、教員ごとの研究・研修計画を立案し、教育分野・専門分野において教員の教育力・資質向上を図る。また、研修報告会等実施し、全教員に伝達し、教員が一定水準の能力を有するよう努力する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

*評価基準

5. 極めて進んでいる 4. かなり進んでいる 3. 進んでいる 2. やや進んでいない 1. ほとんど進んでない

(1) 教育理念・目的・人材育成像

【概要】

本学園の建学の精神・教育理念に則って教育目標を定めている。本校の教育目的は、教育基本法及び学校教育法に基づいて、理学療法士及び作業療法士に必要な専門知識、技術を授け、かつ医療事務従事者に必要な能力を育成し、教養の向上を図る（学則第1条）ことである。そして、本校では常に授業の受け手である学生の立場に立った教育を行い、教員は科学的根拠に基づく専門知識と技術を備え、学生が患者様を第一に思う心に育み、何事に対しても強い責任感をもって行動できる人材を育成する。また、各学科の目標を定め、入学案内・ホームページ等に明示するとともに、ホームルームや保護者会等で機会を設けて学生・保護者に周知している。

現在、平成26年度～平成30年度までの中期目標に基づき、より明確で具体的な方策を検討している。

評価項目	評価結果				
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	5	4	3	2	1
学校における教育の特色は何か	5	4	3	2	1
学校の将来構想を抱いているか	5	4	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像などが学生・保護者・教職員等に周知されているか	5	4	3	2	1

①課題

近年、少子化および大学進学者の増加によって専門学校を目指す高校生が減少していると言われており、本校も少なからずその影響を受けている。また、リハビリテーション領域の人材養成において大学、3年制専門学校と4年制専門学校が存在し、入学希望者が分散するため、良質な入学者を確保することが難しい状況にある。岡山県内は養成校が理学療法士7校、作業療法士5校存在し、近隣県には新設大学も増加しているため、選ばれる学校になるために強い広報活動を通して明確なメッセージを発信していく必要がある。

②今後の改善方策

授業科目・単位・カリキュラム・シラバスの見直しを定期的実施し、医療を取り巻く現状に絶えず目を向け、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、臨床実習指導者等の意見を積極的に取り入れながら、社会の要請を踏まえた実践的な教育を推進していく。また、専門職業教育機関として3年制のメリットを明確にし、本学科の教育内容の特色を内外にアピールするために従来以上の広報活動に取り組む。これらの改革にあたっては、全教職員が本校のビジョンを再度確認した上で、各学科の目標を明確にし、その達成のため主体的に取り組むとともに、法人との共通認識を深めていく。

③特記事項

特になし

(2) 学校運営

【概要】

各学科の基本的な運営方針は学科長が主宰する学科会議で審議・決定している。また、学校長が主宰し、学校の全教員から構成される全体会議で、各学科間の情報共有を図り、学校全体にまたがる運営方針について審議・決定している。教務主任・教務副主任・学科長・事務長で構成される運営会議は執行機関として機能している。学校間の情報共有、共通問題の審議は、学園連絡会議で行われている。その他、就業規則、賃金規定、人事評価規程が整えられており、健全な運営体制がある。

また、職業実践専門課程認定校として、あらゆる情報を公開している。教育活動はパンフレット、ホームページ、Facebook、LINE、ツイッター等で公開している。

評価項目	評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	⑤ 4 3 2 1
人事、給与に関する規則等は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	⑤ 4 3 2 1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	⑤ 4 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5 ④ 3 2 1
学生の要望や意見を反映した学校運営がなされているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

学内の情報システム化は電子メール及び電子掲示板を活用し、ペーパーレスを推進するなど効率化が図られている。ただし、IT環境、セキュリティをさらに強化することが課題である。学科会議、全体会議、各種委員会は有効に機能していると言えるが、細則等をさらに整備し、会議での決定事項の執行が迅速・円滑に行われるようにする。また、教務委員会をはじめ各種委員会の役割を整理する必要がある。全学生に授業評価を実施し改善点を抽出し、優先事項から改善を図る。

②今後の改善方策

細則等を強化し、IT環境の整備をさらに進めて強化する。管理部門と教学部門の更なる連携強化を図る。

③特記事項

特になし

(3) 教育活動

【概要】

教育基本法及び学校教育法に基づき、厚生労働省の定める指定規則に従って、教育課程を組み立てている。1年次は基礎科目・専門基礎科目に重点をおくとともに、講義（キャリア開発論）やホームルームでのディベートやグループ活動を通して、社会人・医療人としての適性を向上させる教育を行っている。2年次は専門科目に重点をおいて編成される。3年次は臨床実習によって、理学療法士・作業療法士として医療従事者としての素養と、臨床技能を修得できるように努めている。また、国家試験対策により、確実に国家資格を取得できる実力鍛錬に努めている。3年間を通して、理学療法士・作業療法士として必要な知識・技術・態度を身につけることができるよう、綿密に準備されたシラバスに沿って講義・演習・実習を行っている。また、進級、卒業、臨床実習の判定基準は、学生便覧・内規を配布した上で、口頭説明を交えて周知させている。

教員は、専門分野並びに教育分野における自己研鑽を推進しており、全教員が研修会、学会等へ参加し内容の報告、伝達を行っている。また学内で毎年教育研修会を開催する等の多面的な活動を通じて、先端的かつ実践的な知識・技術を修得することに努めている。

外部関係者からの評価として、年度末に臨床実習指導者連絡会議を開催し、臨床実習指導者から本校や臨床実習生に対する評価や助言を受け、次年度の教育に反映させている。また、学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会を設置し、外部有識者からの意見をカリキュラム等に反映させている。その他、（一社）リハビリテーション教育評価機構の認定評価を受け、評価認定校に指定されている。

評価項目	評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
教育理念、養成人材像や業界のニーズに照らして、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	⑤ 4 3 2 1
学科等のカリキュラムは関連分野のニーズに照らして体系的に編成されているか	⑤ 4 3 2 1
関連分野の医療施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	⑤ 4 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	⑤ 4 3 2 1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	⑤ 4 3 2 1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	⑤ 4 3 2 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	⑤ 4 3 2 1
人材育成目標の達成に向け授業が行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	⑤ 4 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	⑤ 4 3 2 1
教員の能力開発のための研修等が行われているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

現行の教育課程は、学年ごとにバランスよく編成されているが、3年制の教育課程でさらに効率よく結果につながる方策を検討する。

現在も教員に対して研究・研修を実践するための支援が行われているが、今後、より高度な教育を実現できる研究活動・研修会への参加を推進する。

②今後の改善方策

授業科目・単位・カリキュラム・シラバスの見直しを定期的を実施し、外部関係者からの意見を取り入れながら現在よりも資格取得に向けた効果的な教育ができるように整備を進める。

教員の研修については研修規程に基づき、支援を行う研修について内容を精査し、先端的かつ実践的な知識・技術等を修得し、教員の能力開発を進める。また、次年度は学内研修会の開催数を増やすこと、外部講師を招聘して教育力向上を図るなど、より効果的な教育が実施できる体制を築いていく。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果

【概要】

国家試験合格 100%を目指し、国家試験セミナー、模擬試験、業者模擬試験、特別講義、個別対策講義、個人面談等で対策を講じてきた。その結果、第 52 回理学療法士・作業療法士国家試験合格率（新卒者）は、理学療法学科 100%、作業療法学科 84.2%であった。現役合格者の就職率は 100%である。退学率について、学級担当制と基礎ゼミ制を併用し学生指導を徹底し、また、個別対応を強化することで低減に努めている。卒業生の社会的な活躍及び評価については、教員の学会活動や研修活動などを通して、また、同窓会ホームページを活用し、概ね把握するよう努めている。

在校生のボランティア活動等、社会的な活躍及び評価については、入学後の学生面接をはじめ定期的に面談等を実施することにより把握している。

評価項目	評価結果
就職率の向上が図られているか	⑤ 4 3 2 1
資格取得率は高い水準を保っているか	⑤ 4 3 2 1
退学率は低減しているか	5 ④ 3 2 1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5 ④ 3 2 1

①課題

退学者を一人でも減らすための取り組みとして、基礎ゼミやカウンセリング等を実施しているが、更なる取り組みが必要である。卒業生の社会的な活躍及び評価について体系的に把握し、在校生のモチベーション向上等教育活動に反映する。

②今後の改善方策

授業科目・単位・カリキュラム・シラバスの見直しにより、学生への個別対応による学習支援の時間を拡大する。また、学級担当者と基礎ゼミ担当で連携し、個別対応を更に充実させる。必要に応じてカウンセリング室の利用を促し、臨床心理士による精神的ケアを行う。

卒業生の社会的な活躍及び評価については、職場・卒業生に対するアンケートの実施、同窓会との連携、実習地訪問にて動向把握に努める。

③特記事項

特になし

(5) 学生支援

【概要】

学科長・学級担当者が中心となって就職活動の支援を行っている。就職支援では、就職希望アンケートの実施や個人面接、求人票の提供、履歴書の書き方、就職面接対策などの支援を行っている。また、ハローワークから講師を招き、身だしなみ、就職面接について特別講義を行っている。

学生相談は、役職者、学級担当者、事務職員のそれぞれが明確な業務の目的を設定し、役割を分担することにより組織的に機能している。以前から、カウンセリング室を設置し、臨床心理士による週1回の個別相談（希望者のみ）や試験前のストレスチェック・ケアを行い、精神的な問題のケアを専門に行っている。また、相談活動を強化することを目的に、学生相談を設置し専任教員を2名配置した。

経済的支援体制については、困窮者に対する奨学金支援制度を整備しており、平成27年度から適応している。更に、2年生並びに3年生の成績優秀者に対する特待生制度を設けている。

健康管理については、年1回の健康診断を実施し、また日本環境感染学会の院内感染対策としてのワクチンガイドラインに沿ってB型肝炎・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体検査を行い、抗体のない学生についてはワクチン接種を行っている。また、学生の健康管理並びに生活習慣のリズムを整え、授業中の集中力向上を目的とした朝食サービスを実施し、学生の心身の健康について配慮している。

学生の課外活動として、保健・医療・福祉施設からの要請によるボランティア活動を行っている。1年生には年1回の参加を義務づけ、この活動を通して職業観を醸成させる。

学園の建学の精神の一つである国際的視野を養うための一環として、ネイティブ講師による実践英語レッスン（無料）を引き続き実施している。

保護者については、年1回の保護者会と年2回の個別面談、また日常業務で必要に応じて学級担当から保護者に連絡をするなど綿密な連携を行っている。

卒業生については、転職のアドバイスや理学療法士・作業療法士の日常業務の相談に応じている。また、毎年数回の研修会を開催し、知識・技術向上の支援を行っている。

評価項目	評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(5) 4 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	(5) 4 3 2 1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	(5) 4 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(5) 4 3 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	(5) 4 3 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	(5) 4 3 2 1
保護者と適切に連携しているか	(5) 4 3 2 1
卒業生への支援体制はあるか	(5) 4 3 2 1

①課題

学生が心身の不調により保健室の利用者数が増加の傾向にあった。そこで、臨床心理士によるカウンセリングを受けることができる等の学生の健康面を配慮する取り組みを実施してきたが、今後さらに増加する可能性があるため、より安心できる環境を整備しなければならない。

②今後の改善方策

学生が心身の不調を訴えた場合にすばやく対応できるよう保健室等の環境を利用しやすいよう整備しておく。また、カウンセリング室を学生に周知するため、入学後のオリエンテーションでの説明や学生生活空間に案内を掲示するなど情報を広げるよう努める。

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

【概要】

理学療法士・作業療法士養成施設指導ガイドラインにより施設・設備が整備されている。教育上必要な機械器具等として図書や教材関係は、年間を通じて適宜充足され学生が学びやすい環境づくりに取り組んでいる。施設は、学級単位、小集団での自主学習のために研修室が設置されている。また、個人での自主学習を促進するために、図書室に個別学習スペースが設置されている。また、13階スカイホールも自主学習スペースやコミュニケーションの場としても利用可能としている。

防災については、学校法人で組織的体制が作られており定期的（年3回）に防災訓練を行っている。訓練内容は年度によって異なるように心がけており、平成28年度は防災装置の確認、非常食の点検・試食を行った。

学内にはAED（自動体外式除細動器）を設置している。また、日本赤十字社岡山県支部主催の救急法基礎講習を受講し、緊急時の対応方法について学んでいる。

学外の実習においては、年1回の臨床実習指導者連絡会議の開催や実習期間内の実習施設訪問により、教育体制について調整を行っている。また、理学療法学科は学外実習施設、遠隔地の見直しを行い近県に集約した。作業療法学科は評価実習指導者連絡会議を開催し、実習指導の方法を周知するよう取り組んだ。

評価項目	評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	⑤ 4 3 2 1
図書など教育上必要な資料が系統的に整備されているか	⑤ 4 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

養成施設ガイドラインに準拠し、それを上回る教育環境を整備しているが、今後、より効果的な講義が実施するために、さらに設備を充実させる。時折、機器の故障が発生するため、迅速に対応できる施設管理体制を整備する。防災については法人と連携して、マニュアルに沿って備蓄を整備していく。理学療法学科の学外実習施設、遠隔地の見直しを更に行っていく必要がある。作業療法学科が推進する実習指導方法を全実習施設に周知できるように更なる取り組みが必要である。

②今後の改善方策

施設・設備の更新に計画的に対応する。各教員より対応が必要なものについては意見を集約する。防災については、震災時の地域住民受け入れについてマニュアル整備を行う。理学療法学科・作業療法学科ともに学科内での取り組みを振り返り、適宜改善に取り組む。

③特記事項

特になし

(7) 学生募集と受け入れ

【概要】

求める学生像を明確に示したアドミッションポリシーを学校案内や募集要項、ホームページの入試案内のページに公開している。高校訪問や進学ガイダンスでの学校説明・情報提供、並びにオープンキャンパスの体験授業等によって、本学科での学習内容や教育環境を紹介し、理学療法士・作業療法士の分野で活躍を目指す学生並びに社会人等への募集活動を行っている。前年よりも更に、オープンキャンパスの質の向上を行い、本校の認知度を高めること、理学療法士・作業療法士の具体的な職務内容や役割について認識を高められるように取り組んでいる。オープンキャンパスは、実施後のアンケートを参考にして毎回の内容を変更し、参加者のニーズに応えられるように実践している。体験内容も学生の関心に即した内容にすべく常に改善する努力を行っている。その結果、本校の認識が高まり、オープンキャンパスの参加者数が増加している。オープンキャンパスの参加者数、就学意欲の高い出願者数の増加を目標に、専任教員による高校訪問の回数を大幅に増加させている。なお、オープンキャンパスと入試の開催時期を連動させることで、入試出願者数が増加するようにしている。

学生には、理学療法士・作業療法士国家試験の合格を目指して、豊富な授業時間、経験豊かな教員による指導、基礎ゼミによる個別指導が実践されている。また、通常教室以外に、図書室や個別学習の研修室が設置されている等、充実した教育環境が整備されている。

評価項目	評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	(5) 4 3 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(5) 4 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	(5) 4 3 2 1

①課題

医療分野への進学希望者においては、理学療法士・作業療法士の具体的な職務内容や役割についての認知度が比較的低い。また、理学療法士・作業療法士養成課程の教育内容を更に周知する必要がある。

②今後の改善方策

本校および理学療法・作業療法学科の教育方針や特徴をさらに明確に説明した上で、理学療法士・作業療法士の職務内容や、本校で行う教育内容、指導内容等の具体的な情報を、高校訪問や進学ガイダンス等を活用して、高等学校の教員・学生双方に広く、積極的に紹介・説明する。その際、学校生活や国家資格取得までの工程や入学後の学習環境についても周知する。

③特記事項

特になし

(8) 財務

【概要】

予算、収支計画は過去の実績に基づいた積み上げ方式を採用しており、有効に機能している。流動比率・帰属収支差額比率ともに優れた比率を示しており、財務基盤は安定している。会計監査は、私立学校法第 47 条および本学園の寄附行為第 18 条に基づき、学校法人全体として監事および公認会計士が行い、監査報告書を理事会および評議委員会に提出している。

厚生労働省人口動態調査により 18 歳人口減少は否めない。また、経済成長における高等学校卒業後の就職率の上昇など外部要因の変動を考慮し中期計画策定により対応策を講じている。

財務に関する情報はホームページ上で、消費収支計算書、貸借対照表等を公開している。

評価項目	評価結果				
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	4	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	4	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	5	4	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	5	4	3	2	1

①課題

厚生労働省人口動態調査でも、出生率はわずかな上昇傾向ではあるが、現状では 18 歳人口の減少は否めない。また、経済成長における高等学校卒業後の就職率の上昇など外部要因の変動を考慮し財政基盤を安定させる。

②今後の改善方策

経費効率をさらに高める。

③特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

【概要】

法令ならびに厚生労働省が定める指定規則、ガイドラインを遵守した学校運営を行っている。個人情報については、学生募集要項への記載や入学後のオリエンテーション時に文書および口頭による説明を行っている。また、個人情報保護誓約書等の書面を交わし、学生に向けて意識づけを徹底している。個人情報保護についての説明は入学時のみならず、各学年での実習前に十分な時間を割いて説明を繰り返し行っている。個人情報関連や機密事項が記された書類等は施錠できる棚に保管する等、厳重に管理している。自己点検評価は毎年実施しており、その内容を本校のホームページで公開している。また、自己点検評価の内容に沿った学内環境の改善に努めている。

評価項目	評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	⑤ 4 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	⑤ 4 3 2 1
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	⑤ 4 3 2 1
自己点検・自己評価を公開しているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

自己点検評価における問題点や学校関係者評価委員会からいただいたご意見を積極的に取り入れ、時流に沿った学生や保護者への対応を迅速に進めていく必要がある。また、学内環境を改善することは継続した重点課題とし取り組む。

②今後の改善策

自己点検評価における問題点や学校関係者評価委員会からいただいたご意見を、学内各委員会で迅速に対応策を検討する。

③特記事項

自己評価、学校関係者評価結果については、当校ホームページ掲載済み。

(10) 社会貢献・地域貢献

【概要】

(公社)日本理学療法士協会、(一社)岡山県理学療法士会、(一社)日本作業療法士協会、(一社)岡山県作業療法士会などの関連団体が主催する研修会の会場として、本校を利用している。また、本校教員が理事や委員として運営に携わっている。学生のボランティア活動については、併設の通所介護施設あいざたちや岡山県内外からご依頼いただいた医療・保健・福祉施設などへのボランティアを推奨し支援している。その他、岡山マラソン後の岡山市内清掃、近隣学区の夏祭り参加等を実施している。専任教員の活動として、認知症カフェや介護予防事業での講演活動を実施している。次年度以降に向けて公開講座開催のため事業計画立案を進めている。

評価項目	評価結果				
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	5	4	3	2	1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5	4	3	2	1
地域に対する公開講座等を積極的に実施しているか	5	4	3	2	1

①課題

地区からの要請による支援は積極的に実施している。本年度は地域に対する公開講座は悪天候などの事由により企画を中止せざるを得なかったため、天候などに影響を受け中止とならないような企画立案を心掛ける。

②今後の改善方策

本校の特性を生かし、また、地域や社会のニーズを的確に把握した公開講座を開催する。また、併設の通所介護施設あいざたちと連携した企画立案を進める。なお、企画立案時は予備開催日も含めて立案する。

③特記事項

なし

(11) 国際交流

【概要】

過去に 1 名の留学生を受け入れた実績がある。平成 28 年度は入学希望者がいなかった。留学生に対する規程を見直し、留学生を受け入れやすい体制の再整備を検討する。また、ネイティブ講師による実践英語レッスンを通じて在校生の語学力強化を図ること、国際感覚を啓発している。

評価項目	評価結果
留学生・研修生の受入れ・派遣について行う体制があるか	5 (4) 3 2 1

①課題

入試制度を見直し、留学生の受け入れに意欲的な体制を整備しているが目立った実績にはつながっていない。

②今後の改善方策

留学生について各種広報媒体を利用して多方面に周知し、入学希望者を広く募集する。建学の精神「国際視野を養う」に基づき、海外研修制度を導入し企画運営を進めている。また、海外からの訪問に対応する。

③特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校は教育理念・目標および学園の建学の精神に照らして教育活動その他の学校運営を行い、その結果について自己点検評価を毎年実施している。学校が取り組むべき課題を明確にし、学校関係者評価・教育課程編成委員会等の意見を積極的に取り入れ、次年度の改善に繋げる組織的取組みは実習指導方法の再構築やカリキュラムの改編など成果をあげている。平成 26 年度より学校法人としての中期目標・中期計画が提示され、その内容に応じて本校の中期目標・中期計画が確定し、平成 30 年度までの方針が決定している。よって平成 28 年度の自己点検評価は中期目標・中期計画に照らして行われ、評価結果に基づいて中期計画を見直し PDCA サイクルに基づいて実施していく。また、自己点検評価により教員間相互の問題認識が統一され、教育・運営面で活発な意見交換の場を持ち、改善に繋げていることは評価できる。この自己点検評価報告書は、今後ホームページ上での公表を前提に、適切な方法を確認しながら積極的に公表する。

平成 28 年度自己点検・評価報告書



学校法人 本山学園
岡山医療技術専門学校
医療事務学科

目 次

1. 学校の教育目標	2
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画	3
3. 評価項目の達成及び取組状況	
(1) 教育理念・目的・人材育成像	4
(2) 学校運営	5
(3) 教育活動	6
(4) 学修成果	8
(5) 学生支援	9
(6) 教育環境	10
(7) 学生募集と受け入れ	11
(8) 財務	12
(9) 法令遵守	13
(10) 社会貢献・地域貢献	14
4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果	15

1. 学校の教育目標

本学園の建学の精神は、①豊かな人間性と創造力を養う②自主の精神を養う③国際的視野を養うである。その精神に則って教育目標を定めている。本校の教育目的は「教育基本法及び学校教育法に基づいて、理学療法士及び作業療法士に必要な専門知識、技術を授け、かつ医療事務従事者に必要な能力を育成し、教養の向上を図ることを目的とする」であり、学則第1条に謳っている。すなわちリハビリテーション医療、医療事務関連の分野でチーム医療の一員として社会に役立つ人材を育成することにある。この目的を達成するために、それぞれの領域において、科学に基づく知識と技術を備え、患者様に対する共感・連帯感を心に抱き、何事に対しても強い責任感を持って行動できる人材を育成し、社会に送り出すことを目標とし、常に授業の受け手である学生の立場に立った教育を目指している。

育成しようとする人材像は、以下の11点である。

- ①厳しい倫理観を持ち、自分を律することができる。
- ②科学的根拠に基づいた知識・技術を備えている。
- ③常に自己研鑽に努める向上心を持つ。
- ④患者様に対して共感し、連帯する心を抱く。
- ⑤良好な対人関係を築けるコミュニケーション能力を備えている。
- ⑥何事に対しても強い責任感を持って行動できる。
- ⑦仕事に対する情熱を持続する意思を持つ。
- ⑧自らの健康管理ができる。
- ⑨社会人としての常識（教養）を身につけている。
- ⑩国際的視野、異文化理解力を身につけている。

2. 本年度に重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ①各検定試験の合格率を維持、向上させるため、個別指導・補習授業を強化する。
- ②社会性・人間性の涵養・向上のために、教養教育・日常の生活指導を充実する。
- ③自発的・主体的に自ら課題を見つけ学習に取り組む習慣を身につけさせる。
- ④学生の学習実態を調査し、教育の改善につなげる。
- ⑤教員の資質、教育力の向上を図る。

この具体的な取り組みとして①～③については、入学後のスムーズな授業への導入目的のため、入学事前オリエンテーションと入学後オリエンテーションの実施、導入授業を充実させる。

基礎ゼミ活動の一環として学生個々の学習状況や生活面、学生の特徴を把握するといった個別指導に主眼をおいて取り組む。また、保護者との関係を密にし、一つひとつの事例に対して細やかに学生、保護者、教員が連携して対応していく。

④については、授業評価、個人面談、保護者懇談等を実施し、得られた情報を基にして教育のハード面やソフト面について適宜改善する。

⑤については、教員ごとの研究・研修計画を立案し、教育分野・専門分野において教員の教育力・資質向上を図る。また、研修報告会等実施し、全教員に伝達し、教員が一定水準の能力を有するよう努力する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

*評価基準

5. 極めて進んでいる 4. かなり進んでいる 3. 進んでいる 2. やや進んでいない 1. ほとんど進んでない

(1) 教育理念・目的・人材育成像

【概要】

本学園の建学の精神・教育理念に則って教育目標を定めている。本校の教育目的は、教育基本法及び学校教育法に基づいて、理学療法士及び作業療法士に必要な専門知識、技術を授け、かつ医療事務従事者に必要な能力を育成し、教養の向上を図る（学則第1条）ことである。そして、本校では常に授業の受け手である学生の立場に立った教育を行い、教員は科学的根拠に基づく専門知識と技術を備え、学生が患者様を第一に思う心に育み、何事に対しても強い責任感をもって行動できる人材を育成する。また、各学科の目標を定め、入学案内・ホームページ等に明示するとともに、ホームルームや保護者会等で機会を設けて学生・保護者に周知している。

現在、平成26年度～平成30年度までの中期目標に基づき、より明確で具体的な方策を検討している。

評価項目	評価結果
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	⑤ 4 3 2 1
学校における教育の特色は何か	⑤ 4 3 2 1
学校の将来構想を抱いているか	⑤ 4 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像などが学生・保護者・教職員等に周知されているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

2年制課程の競合校が多いなか、他校とは違う要素が含まれた魅力的なカリキュラムが明確に示されていなかった。そのため、1年制という最短の履修期間で医療や一般社会に役立つ資格を得られるようなカリキュラムを整備するよう取り組んだ。医療現場の事務職員に対するニーズは刻々と変化しているため、常に現場の期待に応えられる人材を養成できるような教育体制を整備しなければならない。

②今後の改善方策

授業科目・単位・カリキュラム・シラバスの見直しを定期的 to 実施し、医療を取り巻く現状に絶えず目を向け、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会等の意見を積極的に取り入れながら、社会の要請を踏まえた実践的な教育を推進していく。また、医療系専門学校が母体である医療事務養成校のメリットを明確に打ち出し、本学科の教育内容の特色を内外にアピールする。そのために従来以上の広報活動に取り組む。これらの改革にあたっては、全教職員が本校のビジョンを再度確認した上で、各学科の目標を明確にし、その達成のため主体的に取り組むとともに、法人との共通認識を深めていく。

③特記事項

特になし

(2) 学校運営

【概要】

各学科の基本的な運営方針は学科長が主宰する学科会議で審議・決定している。また、学校長が主宰し、学校の全教員から構成される全体会議で、各学科間の情報共有を図り、学校全体にまたがる運営方針について審議・決定している。教務主任・教務副主任・学科長・事務長で構成される運営会議は執行機関として機能している。学校間の情報共有、共通問題の審議は、学園連絡会議で行われている。その他、就業規則、賃金規定、人事評価規程が整えられており、健全な運営体制がある。

また、職業実践専門課程認定校として、あらゆる情報を公開している。教育活動はパンフレット、ホームページ、Facebook、LINE、ツイッター等で公開している。

評価項目	評価結果
目的等に沿った運営方針が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	⑤ 4 3 2 1
人事、給与に関する規則等は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	⑤ 4 3 2 1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	⑤ 4 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	5 ④ 3 2 1
学生の要望や意見を反映した学校運営がなされているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

学内の情報システム化は電子メール及び電子掲示板を活用し、ペーパーレスを推進するなど効率化が図られている。ただし、IT環境、セキュリティをさらに強化することが課題である。学科会議、全体会議、各種委員会は有効に機能していると言えるが、細則等をさらに整備し、会議での決定事項の執行が迅速・円滑に行われるようにする。また、教務委員会をはじめ各種委員会の役割を整理する必要がある。全学生に授業評価を実施し改善点を抽出し、優先事項から改善を図る。

②今後の改善方策

細則等を強化し、IT環境の整備をさらに進めて強化する。管理部門と教学部門の更なる連携強化を図る。

③特記事項

特になし

(3) 教育活動

【概要】

教育基本法及び学校教育法に基づき、専修学校設置基準の規定に従って、教育課程を組み立てている。1年次は医療機関における事務職員養成に重点を、2年次は福祉、調剤の分野に重点をおいて編成されている。各学年とも各種認定試験のスケジュールに応じた教育課程を編成し、資格取得を第一目標とする教育を行っている。平成28年度1年次より歯科助手技能認定資格取得のためカリキュラムを編成するなど、医療現場のニーズに対応するため、毎年受験する認定試験の見直しを行い、カリキュラムに反映させている。2年次は約1ヶ月の病院実習を行い、医療現場での適切な能力の修得を目指した教育編成を行っている。また、医療従事者として必要な知識・技能・態度を身につけることができるよう、綿密に準備されたシラバスに沿って講義・演習・実習を行っている。講義ではグループ学習などを通して、社会人・医療人としての適性を向上させる教育も行っている。学生に対しては、学生便覧・内規により、進級、卒業、実習の判定基準を配布し、併せて口頭での指導を行うことで周知している。

教員は、専門分野並びに教育分野における自己研鑽を推進し、先端的かつ実践的な知識・技術を修得し、教育能力の開発に努めている。

学生教育については、個別指導を重視し、丁寧で細やかな対応を行うことを実践している。学生個々の問題に対しては、保護者との連絡を密にし学生・学校・家庭間での連携を強化して指導を行っている。

外部関係者からの評価として、病院実習指導者より本校や実習生に対する評価や助言を受け、次年度の教育に反映させている。平成27年度に教育課程編成委員会を設置し、外部有識者からの意見をカリキュラム等に反映させている。

評価項目	評価結果
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	⑤ 4 3 2 1
教育理念、養成人材像や業界のニーズに照らして、教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	⑤ 4 3 2 1
学科等のカリキュラムは関連分野のニーズに照らして体系的に編成されているか	⑤ 4 3 2 1
関連分野の医療施設等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	⑤ 4 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	⑤ 4 3 2 1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	⑤ 4 3 2 1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	⑤ 4 3 2 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	⑤ 4 3 2 1
人材育成目標の達成に向け授業が行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	⑤ 4 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技術等を修得するための研修や教員の指導力育成などの資質向上のための取組が行われているか	⑤ 4 3 2 1
教員の能力開発のための研修等が行われているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

現行の教育課程は、学年ごとにバランスよく編成されている。その結果は各種認定試験の高い合格率として示されている。しかし、2年間で多くの認定資格を取得するため、スケジュールのさらなる効率化が必要である。平成28年度入学生より、最短期間で効率的に医療事務・医師事務作業補助資格取得を目指すための1年制課程となるため、今後、さらにカリキュラム編成等を検討しなければならない。

教員に対しては自己研鑽の支援とともに、学校全体として、個々の教員に対応した研修計画に基づき、より高度な教育を実現できる研究活動・研修会への参加を推進する。

②今後の改善方策

授業科目・単位・カリキュラム・シラバスの見直しを定期的を実施し、学校外関係者からの意見を取り入れながら現在よりも資格取得に向けた効果的な教育ができるように整備を進める。

教員の研修については研修規程に基づき、支援を行う研修について内容を精査し、先端的かつ実践的な知識・技術等を修得し、教員の能力開発を進める。また、次年度は学内研修会の開催数を増やすこと、外部講師を招聘して教育力向上を図るなど、本学科にとってより効果的な共育が実施できる体制を築いていく。

③特記事項

特になし

(4) 学修成果

【概要】

就職については、医療系専門学校という環境が職種に対する意識の高さに繋がり、殆どの学生が医療・福祉の事務職員として就職している。平成 28 年度は 6 種類の認定試験が合格率 100%を達成し、医療事務の認定試験の中で難関とされる診療報酬請求事務能力認定試験も、全国平均（医科）が 29.2% に対し 75%の合格率であった。学校生活が、より意欲的に取り組めるように、蒜山での研修旅行や学校行事などは継続している。卒業生の社会的な活躍及び評価については教員の活動などを通して把握できている。在校生のボランティア活動等、社会的な活躍及び評価については、入学後の学生面接をはじめ定期的に面談等を実施することにより把握している。

評価項目	評価結果
就職率の向上が図られているか	⑤ 4 3 2 1
資格取得率は高い水準を保っているか	⑤ 4 3 2 1
退学率は低減しているか	⑤ 4 3 2 1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	5 ④ 3 2 1

①課題

学生の就職に対する意識を高めるための取り組みを継続して行い、きめ細やかな個別対応や行事開催等の取り組みを進めることが必要である。卒業生の社会的な活躍及び評価について、同窓会と連携した体系的把握を推進する。

②今後の改善方策

入学時より定期的にキャリアプログラムを実施し、就職への意識づけを図る。また、個別対応での学習・就職支援を充実するとともに、面談時間を十分に確保する。精神的側面については、引き続き必要に応じたカウンセリング室の利用を促し、臨床心理士による精神的ケアを行う。

卒業生の社会的な活躍及び評価については職場・卒業生に対するアンケートを実施し、同窓会と連携して動向把握に努める。

③特記事項

特になし

(5) 学生支援

【概要】

カリキュラムの中でビジネスマナー、接遇、就職対策の時間を十分確保している。また、学科長・学級担当者が就職活動の支援を行い、求人情報を拡充した。

学生相談に関しては、学科長・学級担当者が個々に支援している。また、カウンセリング室で臨床心理士が週1回個別相談（希望者）を行い精神的な問題のケアを専門的に行っている。また、相談活動を強化することを目的に学生相談を設置し専任教員を2名配置した。

経済的支援体制について特待生制度や親族割引制度が適用される。また、奨学金制度や教育ローン制度について適宜案内するなど対応している。

健康管理については、年1回の健康診断を実施し、また日本環境感染学会の院内感染対策としてのワクチンガイドラインに沿ってB型肝炎・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎・水痘の抗体検査を行い、抗体のない学生については、ワクチン接種を行っている。その他、学生の健康管理並びに生活習慣のリズムを整え、授業中の集中力向上を目的とした朝食サービスを実施し、学生の心身の健康について配慮している。

学生の課外活動として、保健・医療・福祉施設からの要請によるボランティア活動を行っている。年1回の参加を義務づけ、この活動を通して職業観を醸成させる。

保護者については、年1回の保護者会と年2回の個別面談、また日常業務で必要に応じて学級担当者から保護者に連絡をするなど密に連携を行っている。

卒業生については、相談があれば転職のアドバイスや日常業務の相談に応じている。

評価項目	評価結果
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	⑤ 4 3 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	⑤ 4 3 2 1
保護者と適切に連携しているか	⑤ 4 3 2 1
卒業生への支援体制はあるか	5 ④ 3 2 1

①課題

学生にとって求人情報が豊富に得られるよう支援する必要がある。今後、学生の生活や健康面に起こる可能性が生じた場合、それに対応するための設備・支援体制をさらに充実させる必要がある。

②今後の改善方策

求人情報を確保するため、医療機関・福祉施設・企業等へ情報を提供していただけるよう、学校から定期的に書類を送付し依頼を行う。

③特記事項

特になし

(6) 教育環境

【概要】

専修学校設置基準により施設・設備が整備されている。教育上必要な機械器具等として図書や教材関係は、年間を通じて適宜充足され学生が学びやすい環境づくりに取り組んでいる。施設は、学級単位、小集団での自主学習のために研修室が設置されている。また、個人での自主学習を促進するために、図書室に個別学習スペースが設置されている。また、13階スカイホールも自主学習スペースやコミュニケーションの場としても利用可能としている。

防災については、学校法人で組織的体制が作られており定期的（年3回）に防災訓練を行っている。訓練内容は年度によって異なるように心がけており、平成28年度は防災装置の確認、非常食の点検・試食を行った。

学外の実習については学科長、学級担当者が個々に各実習施設を訪問し、事務部門の責任者に本校の教育目的や目標、病院実習の要綱や成績表などについての説明を行っている。また、常に学校と実習施設との連絡が取れる環境を整備し、教育体制についての調整を行っている。

評価項目	評価結果
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	⑤ 4 3 2 1
図書など教育上必要な資料が系統的に整備されているか	⑤ 4 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	⑤ 4 3 2 1
学外の実習施設について十分な教育体制を整備しているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

より効果的な講義が実施できるよう、さらに教室の設備を充実させる。防災については法人と連携し、マニュアルに沿って備蓄を整備していく。

②今後の改善方策

施設・設備の更新に計画的に対応する。各教員より対応が必要なものについては意見を集約する。防災については、震災時の地域住民受け入れについてマニュアル整備を行う。

③特記事項

特になし

(7) 学生募集と受け入れ

【概要】

求める学生像を明確に示したアドミッションポリシーを、学校案内、募集要項、ホームページの入試のページに記載して公開している。高校訪問、進学ガイダンスでは学科や取得可能な資格に関する説明、オープンキャンパスの体験授業等では学習内容の解説や教育環境の紹介を行い、医療事務の分野で活躍を目指す高等学校、専門学校、短期大学、大学等の現役生および卒業生、社会人等への入学案内を精力的に行っている。体験内容も志願者の関心に即した内容にすべく常に改善する努力を行っている。その結果、本校の認識が高まり、オープンキャンパスの参加者数が増加している。

オープンキャンパスでは参加者により詳しく分かり易い説明となるよう、平成 26 年度より学科単独の説明会を実施している。また、前年に比べ、オープンキャンパスの回数を増やし、本校の認知度を高めること、医療事務の具体的な職務内容や役割について認識を高められるように取り組んでいる。

オープンキャンパスは、実施後のアンケートを参考にして毎回の内容を変更し、参加者のニーズに応えられるように実践している。また、体験授業も学生の興味に応える内容にすべく改善努力を行っている。その結果、参加者アンケートや入試面接時の受験者の回答から判断して、本学科への理解が深まりオープンキャンパス満足度の水準が高まっている。なお、オープンキャンパスと入試の開催時期を連動させて入試出願者数が増加するようにしている。

専任教員による高校訪問を複数回実施して、学科の知名度を上げる努力をしている。

評価項目	評価結果
学生募集活動は、適正に行われているか	⑤ 4 3 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	⑤ 4 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

知名度の向上を継続して行うことが課題である。医療事務分野の競合校が周辺に多く存在するため、本学科の特色や取り組みが受験生に広く認知される必要がある。多くの志願者を集めるために、各種媒体を活用して、さらに学科の認知度を高める必要がある。

②今後の改善方策

専任教員による高校訪問回数を増やす。高校訪問・進学ガイダンス等では、本校および本学科の教育方針や独自の取組み、特徴、指導内容等、具体的な情報を高校教員・学生双方に、より積極的に紹介・説明する。また、学校生活や認定資格取得までの行程等、入学後の修学環境について周知する。

③特記事項

特になし

(8) 財務

【概要】

予算、収支計画は過去の実績に基づいた積み上げ方式を採用しており、有効に機能している。流動比率・帰属収支差額比率ともに優れた比率を示しており、財務基盤は安定している。会計監査は、私立学校法第 47 条および本学園の寄附行為第 18 条に基づき、学校法人全体として監事および公認会計士が行い、監査報告書を理事会および評議委員会に提出している。

厚生労働省人口動態調査により 18 歳人口減少は否めない。また、経済成長における高等学校卒業後の就職率の上昇など外部要因の変動を考慮し中期計画策定により対応策を講じている。

財務に関する情報はホームページ上で、消費収支計算書、貸借対照表等を公開している。

評価項目	評価結果
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	⑤ 4 3 2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	⑤ 4 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	⑤ 4 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

厚生労働省人口動態調査でも、出生率はわずかな上昇傾向ではあるが、現状では 18 歳人口の減少は否めない。また、経済成長における高等学校卒業後の就職率の上昇など外部要因の変動を考慮し財政基盤を安定させる。

②今後の改善方策

医療事務等の事務職に興味関心を抱いてもらえるよう高校訪問、オープンキャンパスで告知していくことで、志願者数を増加させ、定員充足率を向上させる。

③特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

【概要】

法令ならびに厚生労働省が定める指定規則、ガイドラインを遵守した学校運営を行っている。個人情報については、学生募集要項への記載や入学後のオリエンテーション時に文書および口頭による説明を行っている。また、個人情報保護誓約書等の書面を交わし、学生に向けて意識づけを徹底している。個人情報保護についての説明は入学時のみならず、各学年での実習前に十分な時間を割いて説明を繰り返している。個人情報関連や機密事項が記された書類等は施錠できる棚に保管する等、厳重に管理している。自己点検評価は毎年実施しており、その内容を本校のホームページで公開している。また、自己点検評価の内容に沿った学内環境の改善に努めている。

評価項目	評価結果
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	⑤ 4 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	⑤ 4 3 2 1
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	⑤ 4 3 2 1
自己点検・自己評価を公開しているか	⑤ 4 3 2 1

①課題

自己点検評価における問題点や学校関係者評価委員会からいただいたご意見を積極的に取り入れ、時流に沿った学生や保護者への対応を迅速に進めていく必要がある。また、学内環境を改善することは継続した重点課題とし取り組む。

②今後の改善策

自己点検評価における問題点や学校関係者評価委員会からいただいたご意見を、学内各委員会で迅速に対応策を検討する。

③特記事項

自己評価、学校関係者評価結果については、当校ホームページ掲載済み。

(10) 社会貢献・地域貢献

【概要】

社会貢献については、併設の通所介護施設あいざたちの利用者に対して、学生主体でレクリエーション実習を企画・実施している。

学生のボランティア活動については、併設の通所介護施設あいざたちや岡山県内外からご依頼いただいた医療・保健・福祉施設などへのボランティアを推奨し支援している。その他、岡山マラソン後の岡山市内清掃、近隣学区の夏祭り参加等を実施している。

公開講座については実施していない。

評価項目	評価結果
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	5 (4) 3 2 1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	5 (4) 3 2 1

①課題

今後ますます高まる地域ニーズに対応できるよう理学療法学科・作業療法学科と共同で公開講座等を企画・実施できるよう検討する必要がある。

②今後の改善方策

本校理学療法学科・作業療法学科主催の公開講座等に積極的に参加する。また、併設の通所介護施設あいざたちと連携した企画へ参加する。なお、企画立案時は予備開催日も含めて立案する。

③特記事項

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校は、教育理念・目標および学園の建学の精神に照らして教育活動その他の学校運営を行い、その結果について自己点検評価を毎年実施している。学校が取り組むべき課題を明確にし、学校関係者評価・教育課程編成委員会等の意見を積極的に取り入れ、次年度の改善に繋げる組織的取組みは実習指導方法の再構築やカリキュラムの改編など成果をあげている。平成 26 年度より学校法人としての中期目標・中期計画が提示され、その内容に応じて本校の中期目標・中期計画が確定し、平成 30 年度までの方針が決定している。よって平成 28 年度の自己点検評価は中期目標・中期計画に照らして行われ、評価結果に基づいて中期計画を見直し PDCA サイクルに基づいて実施していく。また、自己点検評価により教員間相互の問題認識が統一され、教育・運営面で活発な意見交換の場を持ち、改善に繋げていることは評価できる。この自己点検評価報告書は、今後ホームページ上での公表を前提に、適切な方法を確認しながら積極的に公表する。